平成22年9月1日　第265号

わがまち

プランニング・デザイン・総合印刷・オンデマンドデジタル印刷・可変データ印刷
大判ポスター出力・データベース・PDF高速データ変換・CD-ROM制作・
3D・CGアニメーション企画・制作
半田中央印刷株式会社
〒475-0032　半田市潮干町1番地の21
TEL〈0569〉29-2525（代）　FAX〈0569〉29-4500
E-mail:main@handa-cp.co.jp　http://www.handa-cp.co.jp

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション　あかい新聞店ホームページ http://www.akai-shinbunten.net　＜発行所＞あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎＜0569＞72-0356　常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎＜0569＞35-2861
企画・制作：株式会社 新聞ビル

Nobuo Murakami

元気のでてくる〝ことばたち〟(143)

村上信夫（アナウンサー）

■村上信夫プロフィール
NHKエグゼクティブアナウンサー
1953年、京都生まれ。
明治学院大学卒業後、
1977年、NHK入局。
富山、山口、名古屋、東京、大阪に勤務。
現在は、『ラジオビタミン』担当。（ラジオ第一 8：30～11：50）
これまで、『おはよう日本』『ニュース7』「育児カレンダー」などを担当。
教育や育児に関する問題に関心を持ち続け、横浜市で父親たちの社会活動グループ『おやじの腕まくり』を結成。
趣味は、将棋。
著書に『元気のでてくることばたち！』（近代文芸社）
『おやじの腕まくり』（JULA出版局）『いのちの対話（共著）』（集英社）『いのちとユーモア（共著）』（集英社）

弱いものが集まって強くなる！

～左官職人 挟土秀平さん～

藍色の土に、漆喰で作った桜の花びらが舞う壁、満月が浮かぶ濃紺の壁…

人は、彼のことを「土と話が出来る左官」「土のソムリエ」「水と泥の魔術師」などと呼ぶ。

一般住宅や文化財の修復だけでなく、東京のホテルロビーやレストランの壁も手掛けている。

北海道洞爺湖サミットで、土の円卓が話題になった。

土と天然素材を使い、世界に一つしかない壁を塗る「左官職人」挟土秀平さん。

細面の顔に、ナチュラルなヘア、くちひげ…獲物を狙うような野性的な面魂だ。

左官になるため生まれてきた

挟土秀平（はさどしゅうへい）。土を挟み、鏝で平らにしていくわけだが、平らにすることに秀でる。まるで左官になるために生まれてきたような名前だ。

１９６２年、岐阜県・飛騨高山の生まれ。今年48歳の年男だ。父が左官職人だった。幼稚園の時には、すでに寄せ書きに「しゃかんになりたい」と書いていた。「親父の働く姿を見ていたし、自分は3人兄弟の長男。長男として父を助けなきゃという思いを持っていた」。

後を継ぐつもりで高山工業高校へ。卒業して、熊本の左官会社で修業を積んだ。21歳で、「技能五輪」という職人の技を競う全国大会の左官部門で優勝した。高卒で、左官歴わずか2年で優勝するというのは初めてのことだった。鼻高々、達成感に満ち溢れていたが、それがのちのちアダとなった。

その後、名古屋の会社に移ったが、他の会社の仕事の応援に回されるばかりだった。チャンピオンになった誇りで、先輩に教えをこうことができず、周りの人との関係も悪化した。しまいには、「あいつは、使えないチャンピオン」だと言われた。挫折の20代。結局24歳のとき、高山に戻った。

久しぶりにふるさとに戻り、父の会社に入ったら、様変わりしていた。父は現場から退き、無敵の思いで舞い戻った2代目に対して、社内に渦巻く人間関係の軋轢は想像を超えていた。

時は、バブルで建設ラッシュ。利益第一主義で厳しいノルマを課せられ、現場で陣頭指揮を執り、セメントによる巨大ビルを次々と手がけ、ボロボロになるまで働いたが、いつしか名古屋にいた時と同じように、会社の中で孤立するようになった。先輩には陰口を言われ、ストレスで髪が抜け、めまいがし、動悸が激しくなり、吐き気がした。自律神経が壊れていった。しだいに「職人の心」も失っていった。

そんな時に、出会ったのが「天然の土」だった。35歳のとき、江戸時代の土蔵の解体の際、黒漆喰の扉に釘付けになった。１００年以上経っているのに、鏡のように輝いていた。その時、自分も天然の土を使って、壁を塗りたいと思った。付近の山や川で採ってきた色土を調合して、試し塗りする日々が続いた。作っては壊し、作っては壊しの連続。とくかく土のことが知りたくて、寝る間も惜しいくらいだった。その頃から、跡継ぎとして入った親父の会社から独立したいという気持ちが芽生え始めた。

「土を通して、左官という職業に新たな可能性とやりがいを見出したい。伝統に従って塗るだけではなく、現代的なセンス、自分なりの味を加えて表現したい」と思った。

２００１年、ついに、挟土さんは、父が創業した会社を辞めて独立した。業界でも珍しい天然の土壁を作る会社をおこした。左官職人14人をまとめる親方となった。

精魂込めた仕事が次の仕事を呼んでいった。土蔵や古民家といった文化財の修復、東京のホテルのロビーやレストランの壁。さらには、新しい首相官邸の壁、北海道洞爺湖サミットの円卓…とビッグプロジェクトにも関わるようになった。

左官には臆病者が向いている

高校生の息子が、近い将来「左官」になるかもしれない。3代目が現実味を帯びてきている。「左官をやりたいと本人が言っているので、尊重したい。全国に自分を超える左官はいないと思っているので、自分の会社に入れて修業させたい」。息子や若い職人に伝えたいことは山ほどある。

「土は裏切らない。長い時間をかけて作り上げられた土には、地球の歴史がつまっている。だから、土の色は絶対的なもの。だから、土の色には安心感があるんだ」。

「土にしても、木の枝にしても、藁にしても、弱くて脆いもの。それらを、丁寧に集めたら強くなる。弱いものが集まって強くなるんだ！」

一つ一つの素材に語りかけながら、いとおしむように扱い、世界にたった一つの「壁」を作っていく。納得のいく「壁」を作るため、立ちはだかる「壁」に向かう姿は、孤高の人にも見えるが、本人にとっては至福のひとときなのだろう。

日本で最も忙しい左官となった今でも、壁を塗るときには不安になる。新たな壁を塗るときは、いつも不安で押しつぶされそうになる。でもこの仕事は、臆病者の方がいいと思っている。

土壁は、環境に左右され、常に変わる。自信過剰になれば、必ず落とし穴に落ちる。不安であるからこそ、周りの空気が読める。マイナス思考のことばかり口にして、最悪を回避して進んでいく。「周りが焦って仕上げようとしても、冷静さを失わず、落ち着いて、臆病になることが必要なんだ」。

首相官邸と公邸の連絡通路の壁を作った時は、8回もやり直した。自分が納得いかないものは、絶対引き渡せない！わずかなミスも決して妥協せず、やり直す。たとえ、引渡しの期限が延びようとも、１００％のことを最後までやるべきだと考えている。ここだけは、職人として譲れない信念。そうしないと、次がないかもしれないという思いがある。

俳画／イネ・セイミ

好評発売中

■イネ・セイミプロフィール

フルート奏者として活躍中。俳画家。絵画を幼少より日展画家の（故）川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元（故）村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中
ところ　常滑屋
とき　月二回　第二・第四金曜日
午後一時～三時
一回　二、二二五〇円（三ヶ月分前納制）
会費
問合せ　☎〇五六九（三五）〇四七〇

大人でも上達する！
おとなのフルート教室 入会受付中!!
何か始めたいと思っている貴女へ。数年後、素敵にフルートを奏でる姿がそこにあります。楽しく個人レッスン致します♪
講師　イネ・セイミ
《フルート奏者　指導歴30年》
1レッスン・1時間5,000円（ティータイム付）
申込み お問合せ　0569-89-7127　seimiine@oasis.ocn.ne.jp

慈愛の人・良寛(63)

杉本武之

生活スケッチ「お酒大好き」

①農家の庭で飲む

五合庵に住んでいる良寛さんが大の酒好きということは、多くの村里に知られていました。「あのお坊さんと飲むと、本当に楽しい」という評判でした。

良寛さんは、お寺には住んでいませんが、厳しい修行を積んだちゃんとした禅僧です。禅宗のお寺には「不許葷酒入山門」（葷酒山門に入るを許さず）という石碑が立っています。お酒を飲んだり、ニンニクを食べたりして、臭い息を吐く人は境内に入ってはいけないという戒律です。良寛さんは、この戒律を破っていた破戒僧だったわけです。

秋のある日のことでした。澄み切った秋空に、白い雲が浮かんでいました。

良寛さんは、朝早くから托鉢に出掛け、小さな農村を一日中歩き続けました。この日の托鉢を終え、五合庵に戻ろうと歩いていて、広い庭のある農家の前にやってきました。そばには小さな川が流れていました。水面すれすれにメダカの群れが泳いでいます。時々、大きなフナやコイが姿を見せます。しかし、すぐに水草の陰に潜り込んでしまいます。

良寛さんは、面白そうに川の中の様子を見ていました。

その時です。その家の年老いた農夫が野良仕事から戻ってきて、良寛さんの姿を見つけました。そして、うれしそうに良寛さんに声をかけました。

「あんたは、良寛さまではないかね？」

「そうですけど…」

「ああ、うれしい。この日の来るのを長い間待っていたんだよ、このわしは」

「何かご用でも…」

「用なんかあるもんですか。さあ、良寛さま、飲みましょう、飲みましょう」

農夫は、良寛さんの背中を押して、庭の中に連れて行きました。

「家の中は陰気くさくて、いかん。庭で飲みましょうや」

農夫は、夏ミカンの根元に置いてあった古い莫座を広げました。それから、汚れた木箱を探してきて、底を上にして、莫座の真ん中に置きました。

「さあ、飲みましょう」

「さあさあ、良寛さま、座ってください」

良寛さんを座らせると、家の中に向かって大声を出しました。

「おーい、誰かいないか！」

10歳ぐらいの男の子が出て来ました。

「おお、正助か。台所からドブロクを持ってきてくれ。このお坊さんと飲むから」

「はーい」と元気に答えて、孫の正助は家の中に消え、間もなく、大きな徳利を抱えて出て来ました。正助のすぐ後から、正助の母親のお里が、茶碗を二つ持って来ました。

「お里、良寛さまだよ」

「あらまあ、本当に良寛さまだ。よくいらっしゃいました。托鉢はもう済んだのかね」

「お里、そんなことはどうでもいいから、すぐにトウモロコシを蒸してきてくれ」

「はいはい」

「仲はまだ畑で働いているが、そのうち帰るだろう。わしらだけで飲んでいましょう」

農夫は、良寛さんに茶碗を手渡すと、徳利を両手で持ち上げ、ドブロクを溢れるほど入れました。良寛さんは、酒のいっぱい入った茶碗を木箱にそっと置きました。それから、今度は、自分が徳利を持ち上げて、相手の茶碗になみなみとドブロクを注ぎました。

「さあ、飲みましょう」と農夫が言いました。

二人は、白く濁った自家製の酒を一気に飲み干しました。

「これは、うまい！お前さんは、ドブロク造りの名人じゃなあ。うまい、うまい」

ほどよく蒸されたトウモロコシが運ばれて来ました。やがて息子も畑から帰って来ました。

「良寛さま、酒はいっぱいある。どんどん飲んでくだされ」

農夫とその息子と一緒に飲んでいると、良寛さんは本当に楽しくなりました。そして、ついつい飲み過ぎてしまい、山へ帰ることができなくなりました。みんなに勧められて、一泊することになりました。おいしいドブロクを飲んだ良寛さんは熟睡しました。

翌朝、良寛さんが農家を立ち去る時、年を取った農夫が言いました。

「良寛さま、うちは貧乏で、何のもてなしもできんけど、こんなんでよかったら、いつでも立ち寄ってくだされ」

良寛さんは、深々と頭を下げました。目にはうっすらと涙が浮かんでいました。

②酒は割り勘で

良寛さんと親しかった解良栄重は、良寛についての最も魅力的な著作『良寛禅師奇話』を書き残しました。その中に、次のような記述があります。

「師は酒を好む。しかりと言えども、量を超えて、酔狂に至るを見ず。また、田父野翁を言わず、銭を出し合いて酒を買い飲むことを好む。汝、一盃。我、一盃。その盃の数、多少なからしむ」

③詩を作る前にまず一杯

医者の原田鵲斎さんは、昔からの良寛さんの親友です。鵲斎さんの方が5歳年下です。真木山村の庄屋の三男でした。二人は、若いころ、大森子陽先生の漢学塾で机を並べて学んでいました。良寛さんが備中（岡山県）の円通寺で長い間修行し、40歳で故郷に帰って来た時、住む所もなく、食べ物にも不自由していた良寛さんに対して、それとなく援助の手を差し伸べていたのが、この鵲斎さんでした。

春のある日、鵲斎さんの使いの者が、明日の午後、庭の梅の花を見に来ませんかという誘いの手紙を届けに五合庵にやって来ました。良寛さんは「参上します。梅には酒がよく似合います。酒の用意もお忘れなく」という返事を書いて、使いの者に渡しました。

次の日、心も軽く鵲斎さんの家に行きました。梅は美しく咲いていました。花を見終えても、酒が出る気配はありません。それどころか、こんな注文が出ました。

「良寛さん、今日は是非とも梅の漢詩を作ってください」

「……」

「良寛さんの詩は素晴らしい、字も素晴らしい。梅の漢詩を作ってください」

良寛さんは、しばらく考えていました。それから、そばにあった紙に歌を書いて、親友に見せました。

「漢詩を作れ作れと君は言へど　御酒し飲まねば出来ずありける」

鵲斎さんは「書き終えたら出そうと用意してありますよ。そういうことなら、少し飲みましょうか」と言って、二人で飲み始めました。酒好きな二人です。少しで済むはずはありません。

酔った良寛さんは、また紙に歌を書きました。

「大御酒を三杯五杯たべ酔ひぬ　酔ひての後はまた出来ずけり」

それを読んで、二人は顔を見合わせて大きな声で笑いました。

〈杉本武之プロフィール〉

1939年　碧南市に生まれる。京都大学文学部卒業。翻訳業を経て、小学校教師になるために愛知教育大学に入学。25年間、西尾市の小中学校に勤務。定年退職後、名古屋大学教育学部の大学院で学ぶ。〈趣味〉読書と競馬

この指とまれ(174)

氏原朝信

学級通信・文集「スクラム」(5)

「三ちゃん農業」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。

この言葉は、高度成長期に入った昭和三五年代になり農業の働き手（おとうちゃん）がサラリーマンになったり、出稼ぎに出たりするようになりました。あとに残された「おじいちゃん・おばあちゃん・おかあちゃん」が農業を行うことから、この三つの「ちゃん」をとって「三ちゃん農業」という言葉ができたのです。このころから、「お父さんの顔」、つまり「お父さんの仕事」がよくわからなくなったとも言われるようになりました。昭和四八年には、国会に「三ちゃん農業」のことが取り上げられました。この年の流行語となっています。

自分たちの親の仕事をよく知ろうという学習をしたあとに書いてくれた作文を紹介します。

はたらきに行くお父さん

T・I子

うちのお父さんは、毎朝六時三〇分のころに家を出ていきます。わたしもお兄さんもまだねています。

お父さんが朝早いのは、名古屋まで行くからです。

会社は三びし重工という名前の工場です。

お父さんの仕事は、ひこうきを作るところです。お父さんはひこうのどう体のところの仕事をしています。その工場は、作る物が大きいので、工場はとても広いです。

食どうも三つにわかれています。お父さんたちは、その食どうでごはんを食べるのです。

夕方の六時三〇分になると、「そろそろお父さんたちが電車に乗る時間だな」と思って、わたしはまっています。

一日の仕事が終わって帰ってくる時間は八時です。

駅までお母さんがむかえにいきます。

夜の家のようす

S・Y子

お母さんの食事のあとかたづけを見ていると、「お母さんはたいへんなんだな」と思います。「少しでも、お母さんをらくさせてたいな」と思ってときどき手つだってあげます。手つだってあげると、お母さんは、「Yちゃん、ありがとう」と、とてもうれしそうな顔をします。

お母さんの仕事は、午前と、午後します。

お父さんの仕事は、朝、昼、ばん、します。夕ごはんを食べてから、とてもはりきって仕事に行きます。

料理研究家 長澤晶子のSPEED★COOKING!

とっても簡単 ビビンバ風どんぶり

野菜とお肉をもりもり食べられるどんぶりです。夏の疲れを吹き飛ばそう!!

材料（4人分）

炊きたてごはん…4人分
Ⓐ－ほうれん草…1束
…（下ゆで→水切り→2㎝カット）
Ⓑ［砂糖……小さじ2／しょうゆ…大さじ3／白ごま……少々］…合わせておく
Ⓒ－にんじん…中¾本…（皮をむき2㎝短冊切り）
Ⓓ－塩……少々
Ⓔ－味付もやし……1袋
Ⓕ－牛もも（薄切りor細切り）…200g
Ⓖ［砂糖……大さじ1／しょうゆ…大さじ2／にんにく…小さじ1／ごま油……小さじ1］…合わせておく

作り方

❶ⒶはⒷであえる。
❷鍋にⒸを入れ、ひたひたに水を入れⒹを加え固ゆでし、水切りする。
❸Ⓔは汁を残してざるあげする。（汁は好みで⑥でかけても可）
❹どんぶりを用意し、ごはんを盛り、①②③を彩りよく盛り付ける
❺フライパンに油（分量外）を少々熱し、Ⓕを炒め、火がよく通ったらⒼを加え、からませ、熱いうちに④に山高に盛る。
❻あれば刻みのり、卵（目玉焼きor温泉卵）をのせてもGood!!

いべんと

◎**常滑市民文化会館**
▼丘陵祭・八日（水）午前九時～十分～午後三時半
▼常滑市小中学校　音楽会・九日（木）午後一時～同三時半
▼第43回愛知ブロック会員大会・十二日（日）午前九時半～午後六時十五分（メインフォーラム　午後〇時半～同二時半の部入場自由）
▼平成22年度常滑地区敬老会・二十日（月・祝）午前十時～午後一時
▼第33回松岡伶子バレエ団　大野研究所　発表会・二十三日（木・祝）午後二時～同四時
▼全知多ハーモニカ演奏会・二十六日（日）午後一時～同四時

◎**常滑市立図書館**
▼鬼崎木版画教室作品展・二日（木）～十一日（土）
▼長楽印会篆刻展・十二日（日）～二十二日（水）
▼中日写真協会常滑支部・二十三日（木・祝）～十月三日（日）

◎**常滑市民俗資料館**
▼第三回企画展「常滑焼の貿易陶器」・四日（土）～十月十七日（日）

◎**常滑市体育館**
▼東海卓球選手権大会愛知県予選会・四日（土）
▼第五回常滑女子剣道大会・五日（日）
▼体協鬼崎支部ソフトバレーボール大会・五日（日）
▼東海卓球選手権大会愛知県予選会・十一日（土）
▼スポーツ少年団フェスティバル2010・十二日（日）
▼愛知県小学生バドミントン合同練習会・十八日（土）
▼第11回常滑市ソフトバレーボール大会・十九日（日）
▼知多支部高等学校バレーボール選手権大会・二十五日（土）
▼第106回常滑市民バスケットボール大会・二十六日（日）

◎**常滑市中央公民館**
▼協賛公開講座　男性料理体験教室・十七日（金）午前九時半～正午　内容　高血圧予防の食事（豚肉衣揚げ・サラダ・コーンチャウダー・ご飯）　講師　常滑市健康づくり食生活改善協議会　場所　料理室　対象　市内在住、在勤の人　定員　十五名　受講料　無料　申込み期限　九日（木）　問合せ　肥田充弘☎35－6029

◎**鬼崎公民館**
▼協賛公開講座　三線教室・十月三日（日）午後一時～同三時　内容　沖縄三線の初心者教室　講師　常滑三線サークル奏楽風　場所　視聴覚室　対象　沖縄三線に興味のある人　定員　二十名　受講料　無料　申込み期限　一二十八日（火）　問合せ　窪田忠逸☎0990－9753－3564
◎**知多市地域文化センター**
▼創作クラブ『宇宙の生きものの』・一日（水）～三十日（木）午前九時～午後四時半　内容　ガチャガチャカプセルやフィルムケース・ボタンなどを使い、宇宙の生きものを作ります　材料費　一個百円
▼季節の工作『おつきみうさぎ』・一日（水）～三十日（木）

（5ページへ続く）

とこなめB級グルメ 屋台広場 毎月 第2・第4 土曜日 雨天中止
2010年5月～9月まで 18:00～21:00
知多半島の食材を使った、おいしいグルメが盛りだくさん
日にち 9月11日・25日
ところ やきもの散歩道 大駐車場 常滑市栄町
お問い合わせ とこなめ屋台倶楽部 TEL0569-34-6038 常滑市保示町1-130（宝友シール内）

誠意をこめて安心のお手伝い
年中無休・24時間体制
(有)大阪屋葬祭
常滑ホール　鬼崎ホール　阿久比ホール
TEL〈0569〉35-4949（代表）
FAX 35-4911

知多の新鮮たまご 発酵ケイフン
(有)知多エッグ
(有)知多エッグ
知多郡武豊二ツ峯380
TEL0569-73-6341

愛知県立大学名誉教授

山田正敏

『バリ島 行ったり来たり』(33)

《日本で迎えた『65回目の終戦記念日』――その前後の新聞を読んで――》

〈〝猛暑の名古屋〟で自活生活〉

本当に久し振りに、七月から八月にかけて、今年の夏は、〝猛暑の名古屋〟で過ごした。在職時代は、名古屋の暑さは、すでに有名ではあったが、当然のこととして、そんなに耐えられないほどの暑さではなく、今日のような〝酷暑〟という言葉も無かったように思う。

退職後、10年あまり前にバリ島山麓の農村に滞在地を設け、夏・冬一ヶ月ほど過ごすようになってからは、年毎に日本の〝夏・冬の自然〟に、私の〝体の自然〟が、馴染みにくくなってきたことを実感する。

それは、加齢による適応力の低下に原因があることは、容易に理解できるが、それにしても、名古屋をはじめ、東京の38度を超える猛暑の日本の大都会の〝夏の暑さ〟は、異様である。

四十年余りも住みなれた私の居住環境は、若干の変化はあるものの、緑にもまだ恵まれ高台のベランダからは、名古屋駅前の高層ビルの幾本かがクッキリと見渡すことの出来る、古くからの住宅地である。

それとても、例外ではない〝名古屋の酷暑〟である。

◆

妻は、途中参加の娘家族を交えて、例年どうりのバリ島での生活――。

帰国第一声は、「名古屋の夏は、バリ島よりも暑い――。」

「バリの室内温度は、22度～23度…。今は乾期でオーストラリアの冷たい東風が吹いてくるし、庭先の水田を渡る涼しい風も吹いてくる……。」

私も体験を思い起こし、暑がりの私も、必ずシャツ一枚を羽織るバリの生活を思い出した。

◆

所用でバリ島に例年のように行けなかった私は、近くに住む息子家族を頼りに、その援助を受けながら、50年ほど昔の、学生時代の「自炊生活」を思い起こし、〝独居生活〟――。

とは言え、敗戦直後の生活とは違い、食料品や生活用品にも恵まれ、調理も簡便で手軽――。名古屋の暑さも、屋内は、朝からエアコンで快適――。

所用とは言っても、机の上の仕事――。じっくり新聞も読めたし、テレビも見た。とくに新聞は朝刊・夕刊二、三紙を熟読し、スクラップもできた。良い学びもできた。

（その一）

「この夏、熱中症で病院に運ばれた人は3万人を超え、死者は東京区部だけで約100人。独り暮らしのお年寄りが息絶える例が多い。」＝「熱中症」とは私には耳新しい病名。それにしても他人事ではない。

（その二）

「都会の酷暑そのものは、ある意味で、人災だろう。車やエアコンの排熱、昼の吸収熱が都会を暖めるヒートアイランド（熱い島）現象だ。ゲリラ豪雨の一因とされる。」＝うっすら気づいてはいたが、名古屋の酷暑は、やはり「人災」でもあったのか――。確かに今年は各地で雷雨・豪雨の水害も多かった。納得のゆく解説である――。朝からエアコンを点け、〝名古屋の酷暑〟を嘆く原稿を書いている私自身が、この〝人災の張本人〟の一人でもあったのか――。それを自覚し、自戒しても、エアコンを切るわけにもいかない〝名古屋の酷暑〟である。

この酷暑は、戦後65年、日本はあの敗戦から立ち直り、世界有数の豊かな国家として成功したはずの、日本のその中枢拠点＝大都市の新たな「都会の社会問題」でもある。早急な問題の解明と、その克服の方途の呈示が待たれる。

《ついに露呈した「都会の究極の社会問題」》

◆

紙面はプロの記者の記事以外にも、読者の投書欄に貴重な記事がある。七月末より、今日に至るも続いている。どれも読み応えのある共感できる記事である。（要約）

（その一）

「不可解な事件が頻発している。親の育児放棄と超高齢者の『生死未確認』。これらの事象は、現代の日本社会の『劣化』の表れ…。

命は医療や社会保障だけで維持されるのではない。親子を基本とする家族関係が崩れたら、あっけなく消えてしまう――。」

（その二）

「幼児も高齢者も受難の時代――こんな情報は聞きたくもない。悲しさと心が痛む。小熊を助ける親熊の姿をテレビで見て、人間は本当に万物の霊長なのかと思った。……親の安否を確認するのは、人間としての最低の条件であり、子どもの責務ではないだろうか――」。

◆

「都会の究極の社会問題」とは、家族や地域といった共同体の崩壊や少子高齢化によって、日本社会がもともと社会的弱者である幼児と高齢者を放置し、生命すら保証しえない社会の問題のことである。

《高齢者所在不明者 一人もいない県もある》

当然といえば当然であるが、この問題で全国すべての市区町村を取材したA全国紙は「不明高齢者は大都市部に集中し、東北や北陸などの26県は、一人もいなかった。」と一面トップ記事で報道していた。この記事には、ホッとさせられた。

貴重な取材である。この〝26県の暮らしと行政のあり方〟に学び、〝人間らしく生き、暮らす生活と行政〟に向けて、それぞれの地域に即した、〝住民のための、水と緑と触れ合いを甦らせる、新たな日本列島改造〟を手がけねばと痛感させられた。

全てバリの庭に咲くジンジャー（生姜科）の花の写真です。

愛と命と息子とピアノ

ドラマティックピアニスト はちまん正人

それはそれは長い間待ち続けてきたことに違いはなかった。これは夢の中なのか、夢の始まりなのか。多くの時間を音楽と共に過ごしてきた。それは確実に、愛と同じく形のないものである。音楽家としてのこだわりは、その形のないものの表現を如何に・・・ということにつきるのである。僕の場合、約四十年を費やし、その内妻と結婚して十七年という年月が過ぎていた。そして突如そこに舞い降りたのである。愛が形となって命と共に。息子よ、我が家へようこそ！

ずっと音楽の神様に語り続けて来たように思う。いかにしてこの喜びを、悲しみを、怒りを、表現すべきかと。でもまるで答えの見つけられない時間が連綿と過ぎてゆく。多くの多くの挫折と失望を繰り返し。それでも

時折感じるあの不思議な感覚はいったい何。確かにその一瞬何かが自分にささやいた。自覚はある。でも実体がない。そうそれは音楽の宿命。仕方のないことなのかな。でももう一歩のような気もする。そう思って三年、五年、七年と時が経っていった。そこに現れたのである。まさに僕たちにとって、神様が授けてくれた天使。いらっしゃいませ。

この紙面には書けないけど、不思議なことがいくつか続いていた。さしさわりのないことを一つ。でも僕にとっては重要なことだけど。彼が舞い降りる少し前に、アンジェロ（天使）という曲を作曲していた。何となく気恥ずかしい想いを抱きながら創った覚えがある。想像もつかなかったから。でも今は、この時が来ることを音楽の神様がちょっと早く伝えてくれたに違いないのだ、と勝手に解釈している。不思議だけど、音楽をやって来て、どんなに辛くても、苦しくても迷ったり泣いたりしたことは一度もないのに、この神様が授けてくれた天使を見て抱きしめると、何時でも込み上げるものがある。

本当に心から、ありがとう。

妻はとても楽しそうに生まれる前の十ヶ月を過ごしていた。二人だけのハーモニーがよく聴こえて来たものだ。全く僕は蚊帳の外。

母親になるための準備と自覚がこの期間に凝縮されている感じ。傍目から見て彼女が変わってゆくのがよくわかった。でもこの世に出てくるのを息子は最後に少し躊躇した。僕たち二人を彼は試すように二日間じらしてじらして出て来てくれた。病院中に響いたあの声は今でもはっきり覚えているし一生忘れないだろう。おめでとう。

彼が生まれて三日目にライヴがあった。そこで大きな驚きを感じることになる。それ迄どうしてもどうしてもとらえられなかったあの感触。いきなり僕に飛び込んで来たのである。それはなんとピアノの女神様だったのだ。

ちょっと変なたとえに感じてしまうけど、言葉で表すと本当に「女神様」なのだ。だからやっぱりこう感じてしまうのだ。彼＝息子が伝えてくれたんだと。だから僕はもう彼に頭が上がらない情けない父親である。いや父親を名乗るのもおこがましいのかもしれない。授かったのではなく、お預かりものだと思って考え得る精一杯の気持ちで育てていこうと思うのである。

さあ出発だ。

ピアノに関して、やはりよく質問されるのは『いつからピアノを始めたら良いの？』もちろん答えは・・なし。三歳、七歳、十八歳、二九歳、六十歳、八一歳、いつでも良いと思う。それぞれのピアノ記念日があって。只、もしそれが子供たちのことだとしたら、願わくば興味を持ち始める環境を作ってほしいと思う。それには親も一緒に楽しんで参加してほしい。歌ったり、踊ったり、一緒にピアノを弾いて邪魔したり。そして間違えても決して怒らないで。弾けなかったら諦めて次へいこう。きっと次の曲はあなたに合った曲だから。

幸いピアノはあまたある楽器の中でも発音するには容易な楽器である。目の前にある白と黒の鍵盤を下へ沈ませれば良いだけなのだ。その分十本の指を使い足までも使うという、これ又稀な楽器である。最近の研究では素晴らしく老化防止に効くそうである。まあそれはさておいて、少し人生が落ち着いてきた頃、音楽が、ピアノが、ふと周りを見渡したとき身近にあるのは素晴らしいことだと僕は思う。どうか人に見せるためではなく、自分のために弾いてほしい。生きていくための実にはならないかもしれないが、心の花がたくさん咲くに違いないから。

力を抜いてがんばろう。

今日も我が息子「正紀」は、ほんの少しだけどでも確実に成長を感じさせてくれている。

今日という思い出のアルバムが又少し増えたんだなと思うとちょっと切なくて嬉しい。僕たちのところへ来てくれて一年半を少し過ぎたところ。パパと呼ばれることにちょっとまだ気恥ずかしい感じが残っているけれど、家中響き渡る声で呼ばれた時はこの軽々しくない身体を弾ませて駆けつけるさ。僕の身に起きた様々な音楽やピアノにまつわる不思議なことや神秘的なこと。それらの答えを見つけるのはやめにしよう。このままピアノを弾き続ければ、きっと最後の最期に神様がささやいてくれそうな気がする。それよりも今、僕の目の前にいる天使との時間を大切に過ごしていかなければいけないんだなと感じている。ピアノを奏でるようにやさしくやさしく。

ア　ロング　ジャーニー

・永い旅路へ・

最後まで読んでくれてありがとう。人生はドラマティック。まるで即興演奏なのだ。皆さんのドラマティックライフの一瞬に、僕のドラマティックピアノといつか出会う日があることを心より祈っています。これからも僕は愛と命と息子とのハーモニーをピアノで奏で続けます。「桜の散歩道」を歩くように。

はちまん正人プロフィール

＊名古屋市立菊里高校音楽科
　愛知県立芸術大学器楽科中退
＊生花小原流家元教授
＊さまざまなジャンルのアーティストとの共演活動で独自の即興演奏スタイルを確立
　13枚のCDをリリース　最新アルバムは「桜の散歩道」
＊1998年横浜ジャズプロムナードにて市民賞受賞
＊2001年11月ピアノ・尺八デュオで
　ヨーロッパ（プラハ・ブダペスト・コペンハーゲン）公演
＊2004年アメリカサンディエゴにてライヴハウス出演
＊帰国後ドラマティックピアニストとしてソロピアノを中心に
　ホームコンサート、カフェやギャラリーを重点に様々な会場で、
　全国をフィールドに活動している。

http://web.me.com/matthachiman/

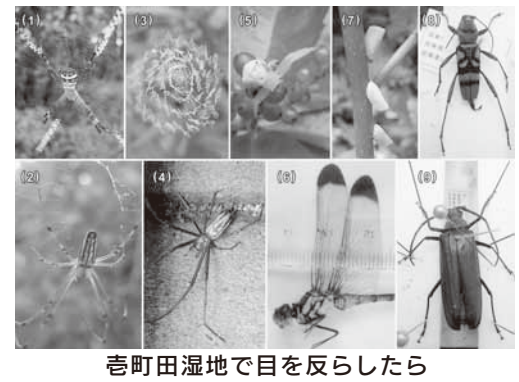
知多の動植物雑記（二六四）

原　穣

いよいよ九月に入り、壱町田湿地の一般公開も四、五の土曜、日曜が今年最後の公開日となる。

九月の湿地は満天の星を思わせるシラタマホシクサが主役であるが、八月に固い蕾であったイワショウブの開花はどれ程?と楽しみ。

ところで、八月の公開日のお昼過ぎ、参観者も少し減ったところで、のどを潤し森の小枝に目をやれば、Oh！お腹に白帯を巻いた姿のコガタコガネグモ(写真(1))が、垂直円網にX字型のかくれ帯をつけ、その中心にとまっている。



壱町田湿地で目を反らしたら

そして草間に目をやれば、半透明な長い脚のクモ。何ものならんとデジカメで撮り確認すればチュウガタシロカネグモ(2)

腹部は銀白色で三本の褐色縦帯、腹部の両肩部にこぶがあり、その上に黒褐色の斑点がある。

(3)はウズグモのかくれ帯で、中心部裏側にクモがいる。

(4)はオオシロカネグモ。水辺や水面上方に、大きな水平円網を張っているクモ。

(5)はアズチグモ。クモの仲間では、この種だけが黄白色で美しい。頭胸部と歩脚はろうのような白色で、網を張らず歩き回ってハエやアブなどを捕らえている。

(6)はコノシメトンボ。羽根の先端の茶色の帯も特徴であるが、正しく見分けるには胸の横の三本の線の内、中央の一本が途中で折れ曲がり、三本目の線にくっついているという特徴がある。

(7)はアオバハゴロモ。幼虫時代は綿のような白い分泌物を出して小枝に止まり、枝も白く包まれている。

(8)はヨツボシトラカミキリ。B湿地の小枝で発見。

(9)は、東浦高根の森で、メーテレの取材時に採ったウスバカミキリで、全長五㌢ほど。朽ち木の穴の中で発見。現在、標本製作中。

ということであるが、(2)(3)(4)(7)は参観者とも話題に。

ちょっとおじゃまします

㈳日本クラフトデザイン協会会員
陶房　博司　水野博司さん

今も昔も変わらず、「朱泥の急須」は常滑焼の代名詞ともなっている。だが、水野さんは朱泥ではなく白泥にこだわる陶芸作家だ。

白泥との出合いは、ただただ個人的に朱泥が好みではなかったからという単純な理由と、「藻がけ」の美しさの虜になったからだ。自分で考え抜いた「象嵌梨皮急須」は、当時としては斬新な急須であった。だが、斬新さばかりが目立ってしまったようで、「梨皮急須」を浸透させるには、かなりの時間を費やした。昭和60年、この「象嵌梨皮急須」が日本クラフト展で『クラフト賞』を受賞した。今では「梨皮急須」は水野さんの代名詞となっている。

他にも薄墨色の「櫛目急須」を手がけている。土が乾燥しないうちに急須の胴をクシでひっかくことで、糸のような細かい模様ができる。ちょっと手間のかかる作品だ。計算し尽くされた「櫛目急須」は、ため息ものの美しいフォルムだ。水野さんている。本当に価値のあるものを作るには、研究から生まれた情報とセンスを取り込むことだと、水野さんは話す。水野さんの急須は熟練した職人の手仕事の賜物だ。

どうしたら、おいしいお茶を出せるか―一、水　二、道具　三、出し方という。水野さんはお茶産地に出掛け、お茶農家と親睦を図ったりしている。また、名水探しには余念がなく、週末は各地の名水をくんでくるという。

本来気兼ねなく楽しめるはずのお茶。お茶の種類や水によって味に違いが出る。バリエーション豊かなお茶をいろいろと試してみようかな…と、思った真夏の暑い日だった。

（赤井　伸衣）

自身は「陶芸作家になる気もない。職人になる気もない。その中間の人」という。何だか、頑固一徹な職人ととらえてしまいそうだ。実は研究熱心すぎる人だ。胴部分の薄さ、湯切れがいいように斜めにカットした注ぎ口、注ぎ口と取っ手の角度や自分で一つ一つ穴を空けて作る茶こしなど、ひとつひとつが細かく計算され

遺跡

町の考古学

古墳の石と船（百五十五）

奥　川　弘　成

武豊町にある中連古墳や山崎古墳では、死者を埋葬する石室にこぶしほどの大きさの石から両手で抱えて動かせる石を多く使っています。中には3人がかりでやっと持ち上げられるものや軽トラックの荷台にいっぱいになるほどの巨石もあります。

この石はどこから運び込まれたのでしょうか。最も多いのが、知多半島の先端の岩場にある砂や泥、火山灰が堆積して固まった岩です。この岩はバームクーヘンのように砂や泥が重なっていることから、好みの厚さに、横に剥ぐことができます。

古墳造りは、この岩の質を利用して石室に合わせながら、打ち欠いたり、へいでいました。中でも多く使っているのが海岸に転がっている岩です。下の写真は石室の入り口付近でみつかった壁の一部で、白くなっているのが海岸の転石です。

海岸の石は、川の石ほど丸くはなっていません。そして、貝があけた穴があったりする特徴があります。

この石を集めることが古墳造りには欠かせません。知多半島では主に南知多町や美浜町南部の海岸にみることができます。海岸に出向いた古墳時代の人々は、集めた石をどのように武豊の地まで運んだのでしょうか。

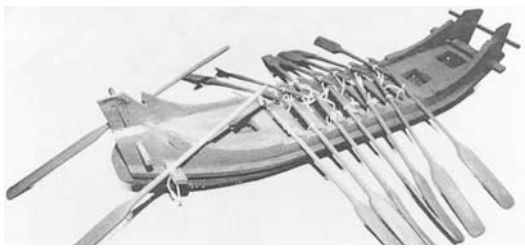
この土地で塩作りが行われていたことからも海民たちが石を運んだのは、陸路ではなく海路と考えてよさそうです。海をつたっていけば、知多半島でなくても他でも石を調達できます。

三河湾にうかぶ佐久島や日間賀島でも同様な石がゴロゴロしています。そこは、板状の石の宝庫です。しかも両島では、聖地のように古墳がたくさんあることで知られています。天気がよければすぐ近くに見える島は、身近な存在でした。

石は、海を渡り武豊の海辺に運ばれていました。当時の船は、丸木舟を改造したものといわれます。武豊町の下門八幡社にあるクスの巨木は天然記念物となっています。当時の人も巨木で加工しやすいクスに目をつけて、縦に木を割って、こつこつと中をくりぬきました。

くりぬいたままの小型の丸木船の他に、大きな船は、前と後ろをつなぎ合わせて造られていました。それは前後と横に波をよける板をつけていたと考えられています。推進力は乗り組む人が櫂（かい）で漕ぐ人力にたよっていました。

大量に石を積むと沈んでしまうので、木や竹を組み合わせた筏（いかだ）も使ったことと思われます。


古墳時代の船（推定復元）製作　前田和正氏

中連古墳の石室の石

いべんと

午前九時～午後四時半　内容　木のチップやピンポン玉などを使って、うさぎや満月のお月見飾りを作ります　材料費　一個八十円

▼いろあそび『ふかいみどりいろにかさねてみよう』・二十日(月・祝)～三十日(木)午前九時～午後四時半　内容　ダーク色に他の色を重ねて染めます　材料費　一枚二百円

▼草木染め『むらさきいろにそめよう』・二十日(月・祝)、二十二日(水)、二十三日(木・祝)午前九時～午後四時半　内容　ログウッドをアルミで媒染して、紫色に染めます　材料費　一枚四百円

▼50円工作『トゲトゲ松ぼっくりのカップケーキ』・一日(水)～十月三十一日(日)午前九時～午後四時半　内容　トゲトゲ松ぼっくりに毛糸やパールビーズで飾り付け、カップケーキを作ります　材料費　一個五十円

▼『ふれあいミニミニコンサート　チビッコ広場』出演者募集のお知らせ・十月二十七日(水)午前十一時～十五分～　出演時間　二十～三十分　内容　地元の音楽家や楽器の好きな方に、就園前の幼児や親を対象とした、子ども向けの音楽を演奏してもらいます　出演者数　一組　申込み　多数の時は主催者で調整　申込み十二日(日)まで

◎**ギャラリー共栄窯**

▼田村一　陶展・十八日(土)～二十八日(火)

◎**ギャラリーCera（常滑市観光プラザ）**

▼吉山祐子陶展・三日(金)～十三日(月)午前九時～午後五時半

▼上山明子(乾漆彫刻)、盛林咲子(石彫)、村瀬有香(絵画)　3人展・十七日(金)～二十七日(月)午前九時～午後五時半

▼畑中圭介展・十月一日(金)～十一日(月・祝)午前九時～午後五時半

◎**常滑屋**

▼稲垣征弘「稲垣征弘作陶展」・七日(火)～十二日(日)

▼サマサマ楽しく個性的に」・二十日(月・祝)～二十六日(日)

▼アトリエ紗衣　坂井よし江「毛糸と布帛で楽しむ帽子とベスト」・二十八日(火)～十月三日(日)

◎**陶芸サロン陶美園**

▼常設展示　秀作陶展

◎**ギャラリーセビカ（まるふく内）**

▼TIMSINCLAIR・あらきゆうこ陶展・三日(金)～十三日(月)

▼奥田知子陶展・十七日(金)～二十七日(月)

◎**ギャラリーとこなめ（常滑市陶磁器会館内）**

▼青天窯展・二日(水)～十四日(火)午前九時～午後五時

▼黙示庵窯　久田邦男作陶展・十七日(金)～二十三日(木・祝)午前九時～午後五時

◎**方円館**

▼素三・昭龍・壺堂三人展～八日(水)

▼森下宗則展・十日(金)～二十三日(木・祝)

▼方円館陶芸教室作品展・二十五日(土)～二十九日(水)

◎**武豊町中央公民館**

▼料理教室(パスタ編)・四日(土)午前十時～午後二時　定員　二十四名　参加費　千二百円

▼武豊写友会写真展・五日(日)～十八日(土)

▼福寿大学⑤「可愛い孫と我が人生の幸せの為に」・八日(水)午前十時～正午　定員　五百名(六十才以上)

▼子育て応援講演会「色彩心理でもっと楽しくなる子育て・自分育て」～心を育てるカラーセラピー～・八日(水)午前十時～正午　定員　百名(子育て中の方、託児に興味のある方)　無料　申込要

▼パソコンわいわい相談室・十一、二十五日各(土)午後一時半～同四時

▼家庭教育セミナー「子どものやる気を育てるには」・十四日(火)午前十時～正午　無料

▼親業体験！学習会「人間動物園～私を動物にたとえると～」・十四日(火)午前九時半～正午　講師　親業インストラクター　参加費　千百円　※託児あり(申込要)

▼ハウスクリーニング教室・十五、二十九日各(水)午後七時～同八時半　定員　二十名　参加費　五百円

▼子育てリフレッシュ講座「九つの性格から学ぶコミュニケーション講座」性格のタイプを知ることで、円滑なコミュニケーションに生かす・十六日(木)午前十時～同十一時半　定員　二十名　無料　※託児あり

◎**武豊町民会館**

▼**ゆめたろうプラザ**「折りたたみテーブル」・二日(水)・二日(木)・三日(金)各午後六時～同九時　計三回

▼ゆめっぴ企画　演劇人冒険舎「ねがいごとパズル」・四日(土)午後三時開演　主人公は“がまん”が大嫌いな小学生ユウスケ。ユウスケは民話“三つの願い”の登場人物、由作と旅に出ます　そして民話の登場人物の喜び、悲しみを通し思いやり　たくましさを一つずつ身につけます。そう、パズルを一つずつはめ込むように

▼ゆめプラザロンコンサート　無伴奏チェロ・リサイタル　長谷川陽子「チェロが歌うのは森の記憶」・五日(日)午後二時開演　曲名　マーチ(プロコフィエフ)　ソナタ一番(プリテン)　パガニーニの主題による変奏曲(ポッタームトン)他

▼Swing Band TAKETOYO　定期公演『harvest～実りに感謝～』・十二日(日)午後二時開演　曲名　Sing Sing Sing・Into Mood・茶色の小瓶

▼サイエンス・トーク⑦　JFEスチール株式会社「鉄の科学」・十一日(土)午前十時半～正午　定員　二十四名(小学三年生以上)　無料

▼ゆめプラモーニングコンサート「マハナからの贈り物」・十五日(水)午前十時半開演　出演　マハナ(サックス、コントラバス、ユーフォニアム、パーカッションのアンサンブル)　チケット　五百円　一ドリンク付

▼フレンドシップ事業(チームパシフィック)「ロゴロボットの子どもたちと数名でチームを組みロボットを作成し、課題にチャレンジします」・①国内戦十九日(日)、二十三日(木・祝)、十月三日、二十四日各②国際戦　十二月二十三日(木・祝)より　定員　十二名(小学四年生～中学生でレゴロボット製作教室　初級修了者)

▼井上道義＆オーケストラ・アンサンブル金沢・二十日(月・祝)　曲名　交響曲第三十九番(変ホ長調)他

▼三遊亭円丈　独演会・二十三日(木・祝)午後二時開演

◎**武豊町総合体育館**

▼第十一回チャレンジギネス大会・十二日(日)

◎**おおあし児童館**

▼和太鼓を体験しよう・十二日(日)午前十時半～正午

▼ニュースポーツ大会・十八日(土)午後一時半～同三時

◎**くすのき児童館**

▼クイズ大会・十八日(土)午後一時半～同三時

◎**長尾児童館**

▼親子で遊ぼ！・一日(水)午前十時半～同十一時半

▼パスタパーティ・十八日(土)午前十時半～午後三時

◎**東大高児童館**

▼卓球で遊ぼう・十一日(土)午後一時半～同三時

▼乗り物乗り放題DAY・十八日(土)・十九日(日)各午前十時～午後四時二十分

※四館共通行事　わんぱくクラブ・二、九、十六、三十日各(木)・三、十、十七日各(金)午前十時半～同十一時半

◎**半田空の科学館**

▼夏の大観望会③「空の宝石眼では一つに見えるのに望遠鏡で観察すると二つならんでいる二重星　この二つの星の明るさや色を比べてみよう？四日(土)午後七時～同八時(時間内自由参加)　無料

天候不順時は中止

▼九月の星見会「太陽と金星」太陽投影板で太陽を観測　活動が活発なら黒点が観測できます　金星は月のように満ち欠けします　今日はどんな形かな・五日(日)午後一時～同三時(時間内自由参加)　無料　天候不順時は中止

▼半田市内幼稚園・保育園「子ども宇宙絵画展」・十八日(土)～十一月十四日(日)

▼音楽コンサート「名月コンサート」・二十二日(水)午後六時半～同八時　参加費　五百名(小学生以上)

▼「お月見をしよう！」・二十二日(水)午後八時～同九時(時間内自由参加)　無料　天候不順時は中止

◎**碧南白竹木材**

白竹ギャラリー

▼柴田　美香『鉄の螺旋』黒を基調に鉄と異質な素材(皮ガラス　木など)の組み合わせの面白さを表現　椅子・衝立・花器など・十七日(金)～二十二日(水)

若竹俳壇

作品募集　毎月十日までに葉書で　発行所へ

長崎忌龍馬がいたら何とする
水打って熱き夕日を沈めたり
日盛や前のめりして登り坂
海の子に海の空ある夏休
大房の毬つくごとく百日紅
韓国の食と文化に触れし夏
折鶴や平和を願う原爆忌
金魚玉孫の笑顔に癒される
八朔や父が手練の古葉書
真夏日に辛目のカレー食進む
あの人も天上散歩蓮の花
うな重を食べて長命祈願する
風鈴も鳴りをひそめし寝苦しさ
神主に続いて大鳥の茅の輪かな
この夏は油断大敵熱中症
禁煙の看板歩く夏の浜
日に酷暑外出恐れ事欠かし
思考力薄れゆくなり猛暑の日
念仏の数珠くりながら汗拭う
窓あけて初蝉の声通しけり
雨上り片虹太く地に刺さる
蹴り上げしボールの行方夏の雲
山門をくぐれば蝉の声ばかり
かき氷甘き思い出また一つ
青空に黄色鮮やかオクラの花
朝戸繰る蝉の鳴き声快く
風鈴を吊るせど風のそよりとも
鮮やかに咲くゼラニュウム匂いよし
軒先の朝顔一輪風ふかれ
料理する額に汗の滲み出る
朝顔の涼しいうちにぱっと咲き
熱帯夜暁野鳩ポウと鳴き
遠花火窓に手をかけのぞき見る

吉田ひろし
片岡　光子
谷川と志江
加藤　久子
塚本　千鶴
関　里美
小島　彩
村田　政子
山下　悠児
林　京子
河瀬四四子
藤井　文月
清水ドラ吉
冨田　悦子
杉江　夕工
竹内三千彦
谷川　利子
磯村美耶子
岩田つま子
村井みさを
荒川　達雄
村井　範子
竹内ユミ子
山中　博子
渡辺　民子
佐藤　きぬ
杉江　ちゑ
小林美恵子
岩橋　美幸
井野　洋子
杉江　キヨ
伊奈　五郎
中村　洋子

わが家のニューフェイス

永野　希奈（7才）未桜（2才9ヶ月）夢依（1才1ヶ月）半田市東雲町

私ね。
つつも買っ物に行くと、あらゝ可愛い男の子って言われるんだけど……これでも女の子だよって大きな声で叫びたくって!!毎日2人のお姉ちゃんにきたえられてるから私って強いんだ!!でも一つだけママが困っているのは、少しでもママの顔が見えなくなるとすぐに大泣きしちゃいます。今は、みんなに可愛がられてるアイドルの夢依です

写真・文　永野美幸

愛とMy Family

お父さんといっしょ

関　絢名（あやな）（2才10ヶ月）
常滑市栄町

こんにちは。絢名です。もうすぐ3歳になり、最近では少々生意気な事も言うようになったよ。お母さん、いつもわがままばかり言う私だけど一生懸命育ててくれてありがとう。今日はお父さんと大きな猫ちゃんを見て来ました。お父さん、お母さんこれからも私といっぱい遊んで色々教えてネ。私ももっと×2大きくなるからネ。

写真・文　関豊見

誠意と真心で…あんしんのかけはし

葬儀のすべてを、お引き受け致します

24時間体制完備

CSK葬祭

0120-33-5909

常滑市　あいち知多農協・冠婚葬祭友の会指定特約店

青海 瑞雲殿

TEL.0569-44-2234（直通）

常滑市青海町1丁目1番地〈国道155号線沿い〉

100台駐車可能の大駐車場完備

常滑 瑞雲殿［本社］

TEL.0569-35-2785（代表）

常滑市北条1丁目34番地

200台駐車可能の大駐車場完備

日中は残暑、日が落ちると、やっぱり秋はそこまで来ている…。
秋ぐちは日に日に気候が変わります。そんな時、この1着が重宝します。

中根由美子　絹織もの＋パンツ・スカート
加藤勢季子　墨絵＋柿渋染シャツ
中根　啓　秋のTシャツ
新実　清彦　くるみ染め・墨染めシャツ

とき　2010.9/1（水）-7（火）
10:00-17:00　木曜定休

白竹ギャラリー

〒447-0863 愛知県碧南市新川町6-8
TEL 0566-42-3266
【名鉄三河線新川駅より徒歩5分】
アクセスはこちら▶http://www.hakutake.net